

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

堅調な需要により卸売価格は高水準

3月のフィードロット飼養頭数、記録的高水準

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2022年2月のフィードロット導入頭数は184万8000頭（前年同月比9.3%増）、出荷頭数は182万5000頭（同4.9%増）となった。この結果、22年3月のフィードロット飼養頭数は1216万3000頭（同1.4%増）となり、3月1日時点の飼養頭数としては記録的高水準となった（図1）。

現地情報によると、肥育もと牛価格が高いことや干ばつによりフィードロットへの雌牛出荷が増加していることなどが要因としている。特に、干ばつの影響が大きかったテキサス州、カンザス州、ネブラスカ州のフィードロットでは、導入頭数が前年同月と比べて10%以上増加している。

同じくUSDA/NASSによると、22年2月の牛と畜頭数は263万4100頭（同6.5%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図2）。新型コロナウイルスのオミクロン株感染が広がったことにより1月の食肉処理場の稼働率が低下し、肥育牛が滞留していた中で、2月に入り稼働率が回復してきたことから出荷が増えたものとみられる。

図1 フィードロット飼養頭数の推移

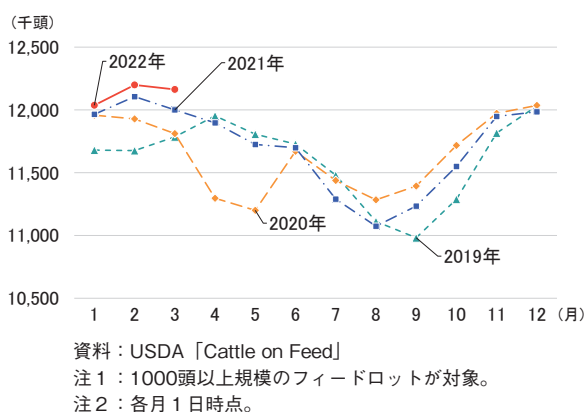
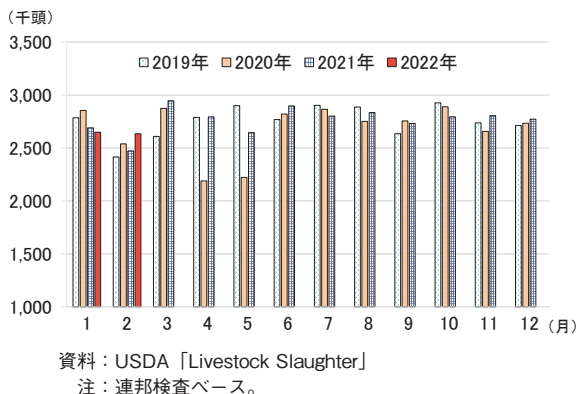


図2 牛と畜頭数の推移



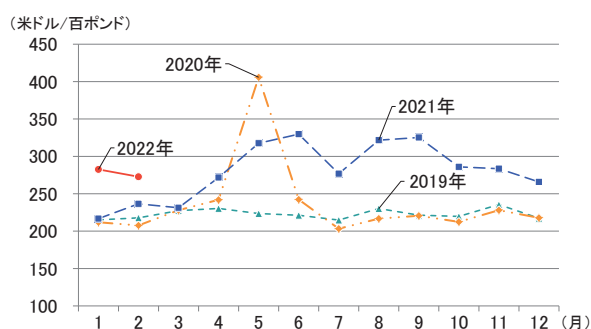
需要期を控え在庫は高水準

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2022年2月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー）は、100ポンド当たり272.77米ドル（1キログラム当たり742.01円：1米ドル＝123.39円^{（注）}、前年同月比15.3%高）と前月からは

下落したものの、依然として高い水準にある（図3）。現地情報によると、肥育牛の出荷量増加に伴い2月の同価格がやや低下したため、春から夏の需要期に向けた価格上昇と今後の牛肉供給量不足を懸念した小売業者の購入が目立っているとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

図3 牛肉卸売価格の推移



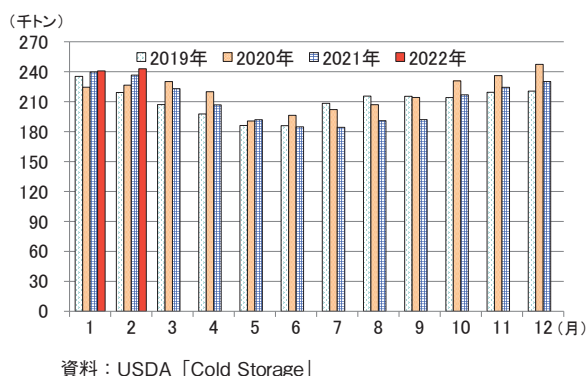
資料：USDA「Livestock & Meat Domestic Data」

注1：カットアウトバリュー（各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格）。

注2：チョイス級、600～900ポンド。

また、22年2月の牛肉期末在庫量は、24万2900トン（前年同月比2.7%増）となり、2月末の在庫量としては過去最高となった（図4）。現地情報によると、この在庫増は需要の減退を意味しているものではなく、前述の通り春以降の需要期に対する供給懸念を持つ小売業者が在庫を増やしたものと分析している。

図4 牛肉の期末在庫の推移



資料：USDA「Cold Storage」

（調査情報部 上村 照子）

カナダ

干ばつの継続により牛飼養頭数の減少続く

総飼養頭数、前年比1.5%減

カナダ統計局によると、2022年の牛飼養頭数は1109万5000頭（前年比0.5%減）となり、1989年以来の最低数となった（表）。カナダの肉用牛飼養頭数は、2006年以降ほぼ一貫して減少傾向で推移している。アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州の一部では、干ばつが深刻な問題となっており、現地情報によるとこれら3州を中心とするプレーリー地帯（カナダ中南部の平原地帯）の干ばつの継続が頭数減少の一因としている。

飼料価格高により、経営は圧迫

カナダでの飼料穀物の中心となる大麦の価格は、西部プレーリー地域が干ばつに見舞われたことによって生産量が大幅に減少し、在庫もひっ迫していることから、2020年後半から週ごとに上昇を続け、22年は過去最高値を更新している。

カナダ肉用牛生産者協会（CCA）の市場分析部門であるCanFaxによると、21年のフィードロットの収益は6月のみ黒字で、他の月は赤字となっている（図1）。現地情報によると、22年の肉用牛価格は前年から上

表 牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	11,565	11,500	11,265	11,155	11,095	▲0.5%
繁殖雌牛	4,647	4,664	4,525	4,513	4,480	▲0.7%
肉用牛	3,675	3,686	3,544	3,532	3,501	▲0.9%
乳用牛	972	978	981	981	979	▲0.2%
未經産牛	1,728	1,727	1,691	1,659	1,626	▲2.0%
肉用後継牛	562	550	524	539	517	▲4.0%
乳用後継牛	433	432	438	426	430	0.8%
その他	733	745	729	695	679	▲2.3%
去勢牛	1,243	1,203	1,100	1,054	1,013	▲3.9%
種雄牛	215	212	200	210	214	1.7%
子牛	3,732	3,695	3,749	3,718	3,763	1.2%

資料：カナダ統計局 (Statistics Canada)

注：各年1月1日時点。

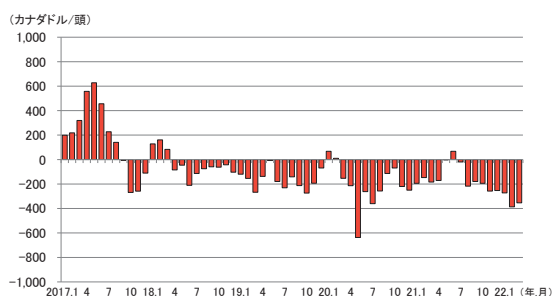
昇しているものの、飼料コストが高止まりしているため収益の増加は難しく、肥育経営の収益は圧迫されるとしている。他方で、22年の大麦生産は減産となった21年より回復が見込まれることで、今後の飼料コストは下落するという見方もある。そのため、出荷価格に対する飼料コストの比率は改善が期待できるものの、これまでの飼料価格高騰の影響を相殺するまでには至らず、大半の肥育経営の収益はやや改善または横ばいになるとみられている。ただし、天候の他にも、鉄道網やトラックドライバーの労働力不足などのサプライチェーンの問題や国際情勢の行方など、

飼料供給には不安定さが残るため、今後の動向を注視する必要がある。

米国向け輸出が好調

カナダ統計局によると、2021年の牛肉輸出量は44万1325トン（前年比16.6%増）と大幅に増加した（図2）。この7割超を米国向けが占めている。現地情報によると、米国ではインフレ（価格上昇）が加速しているため、牛肉価格も高値での推移が予測されている。一方で、22年の米国の牛肉生産量は減少が見込まれており、カナダ産牛肉の需要増が期待されている。また、近年は日本向け輸出量の増加などアジアでの需要の高まりにより、わずかではあるが、米国への依存度は相対的に低下しつつある。

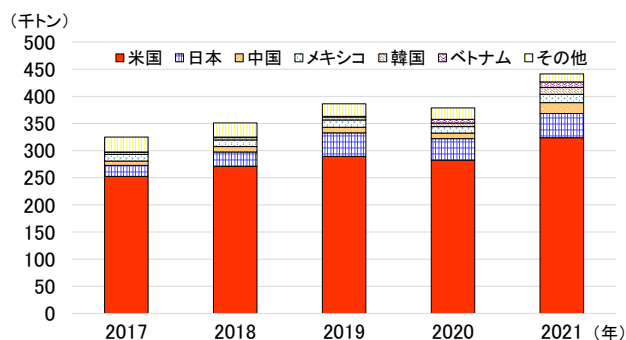
図1 カナダにおけるフィードロットの損益の推移



資料：CanFax

注：若齢肥育去勢牛1頭当たりの損益。

図2 牛肉の輸出先別輸出量の推移



資料：カナダ統計局（Statistics Canada）

注1：製品重量ベース。

注2：生鮮および冷蔵した牛の肉、冷凍した牛の肉の合計値。

（調査情報部 上村 照子）

豪州

洪水による影響で牛肉輸出量は依然低迷

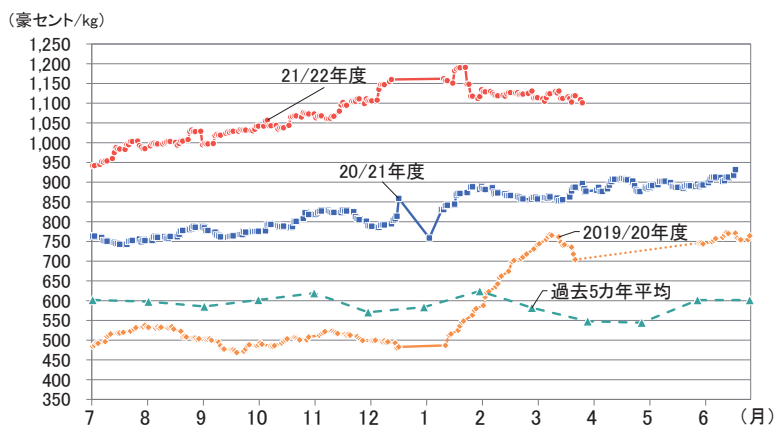
肉牛生体取引価格は横ばいか下落傾向

前後で推移しており、横ばいもしくは緩やかな下落傾向となっている（図）。

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2022年2月以降、1キログラム当たり1110～1130豪セント（1043～1062円：1豪ドル＝94.00円^{（注）}）

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

図 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

現地報道によると、2月下旬からの豪雨により、クイーンズランド（QLD）州とニューサウスウェールズ（NSW）州北部の肉牛生産者からの出荷頭数が減少したものの、食肉加工施設も同じく一時的に操業停止を余儀なくされたことで、需要の一時的な減少から、肉牛価格への影響はほとんどなかったとしている。また専門家からは、大幅な価格下落のタイミングがあるか否かは、今後のQLD州の牧草の生育に影響を与える天候の状況次第との見方が示されている。

牛肉輸出量は2月も低水準

豪州農業・水・環境省（DAWE）によると、2022年2月の牛肉輸出量は全ての主要輸出先向けが減少しており、全体としても5万9513トン（前年同月比10.9%減）とかなりの程度減少した（表）。現地報道によると、前述の通り2月下旬の豪雨による食肉加工施設の一時的な操業停止に加え、新型コロナウ

イルスのオミクロン株感染の拡大が続いていることにより、一部の食肉加工施設では人員不足で生産に支障を来しているためとしている。

輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは、1万6232トン（同9.2%減）とかなりの程度減少した。

韓国向けも、1万564トン（同12.8%減）とかなり大きく減少した。なお、QLD州にあるNHフーズ・オーストラリア社（日本ハムグループ会社）の食肉加工施設で製造された牛肉から、残留化学物質が検出されたことを理由に、韓国政府は22年3月23日付けで同施設からの牛肉輸入を停止している。これについて豪州政府は証拠がないとして、NHフーズ・オーストラリア社とともに、韓国政府に対し、早期解決に向けた交渉を図っているとしている。

米国向けも、9025トン（同7.7%減）とかなりの程度減少した。現地報道によると、米国の西部および中部地域が深刻な干ばつに

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2021年 2月	2022年 2月	前年同月比 (増減率)	2022年 1～2月	前年同期比 (増減率)
日本	17,878	16,232	▲ 9.2%	26,446	▲ 13.1%
中国	11,676	11,531	▲ 1.2%	20,311	▲ 2.6%
韓国	12,110	10,564	▲ 12.8%	19,852	▲ 3.3%
米国	9,780	9,025	▲ 7.7%	15,783	▲ 6.3%
東南アジア	6,876	4,965	▲ 27.8%	8,723	▲ 34.0%
中東	3,067	1,659	▲ 45.9%	2,778	▲ 45.7%
EU	948	824	▲ 13.1%	1,264	▲ 14.8%
その他	4,483	4,713	5.1%	7,719	▲ 3.2%
輸出量合計	66,818	59,513	▲ 10.9%	102,875	▲ 11.6%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ）の合計。

見舞われ、と畜頭数の増加から豪州産への需要が減少していることや、豪州国内での牛群再構築によると畜頭数の低迷を背景に、米国向け主要輸出品であるハンバーガー用の冷凍

牛肉を十分に供給できないことが要因としている。

(調査情報部 国際調査グループ)

ウルグアイ

2021年の牛肉輸出量、生産量の回復を背景に増加

牛と畜頭数、3年ぶりに増加に転じ過去最多を記録

ウルグアイ食肉協会（INAC）によると、2021年の牛と畜頭数は、263万8000頭（前年比31.5%増）とこれまで最多であった06年を約5万頭上回った（図1）。近年のと畜動向を見ると、19～20年は、16～18年に生体牛（雄子牛）輸出が増加した結果、と畜頭数が減少している。一方、21年は、主要な生体牛輸出先であるトルコが19年に輸入制限措置を講じたため19～20年の生体牛輸出が減少したことや子牛出生頭数が増加したことなどから大幅に増加した。

牛肉輸出量は中国向けを中心に大幅に増加

2021年の牛肉輸出量は、と畜対象となる牛群の増加や堅調な牛肉価格などによる生産増を反映して、41万6023トン（前年比37.0%増）と前年を大幅に上回った（表）。

輸出先別に見ると、全体の約7割を占める中国向けは28万6416トン（同57.9%増）と大幅に増加した。これは、同国向けで競合するブラジルでの非定型BSE確認に伴う輸出停止措置の影響やアルゼンチン、豪州からの輸出減などが要因とみられる。一方、中国に次ぐ米国向けは、20年に大きく増加した反動で3万6209トン（同15.5%減）と前年を下回ったものの、依然、低関税枠（2万ト

図1 牛と畜頭数の推移

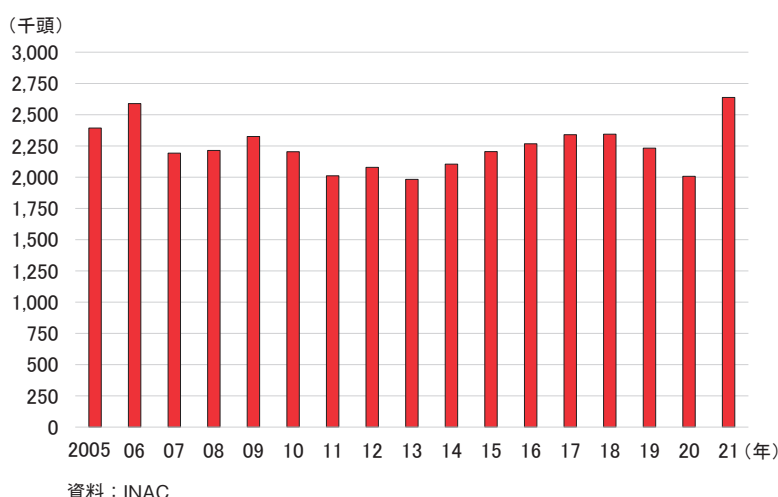


表 牛肉輸出の推移

区分	2020年		2021年		前年比（増減率）	
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	輸出量	輸出額
中国	181,421	753,039	286,416	1,455,252	57.9%	93.3%
米国	42,874	269,671	36,209	244,942	▲ 15.5%	▲ 9.2%
オランダ	15,080	132,725	17,289	167,331	14.6%	26.1%
イスラエル	7,094	49,993	11,988	87,174	69.0%	74.4%
カナダ	15,966	71,651	8,177	40,085	▲ 48.8%	▲ 44.1%
ブラジル	5,348	39,811	6,895	59,334	28.9%	49.0%
日本	3,048	21,893	6,598	46,819	116.5%	113.9%
イタリア	6,339	43,020	6,596	47,446	4.1%	10.3%
チリ	1,611	9,276	5,472	39,885	239.7%	330.0%
その他	24,889	161,562	30,383	219,290	22.1%	35.7%
合計	303,670	1,552,640	416,023	2,407,558	37.0%	55.1%

資料：ウルグアイ中央銀行

注1：HSコード0201、0202の合計。

注2：製品重量ベース。

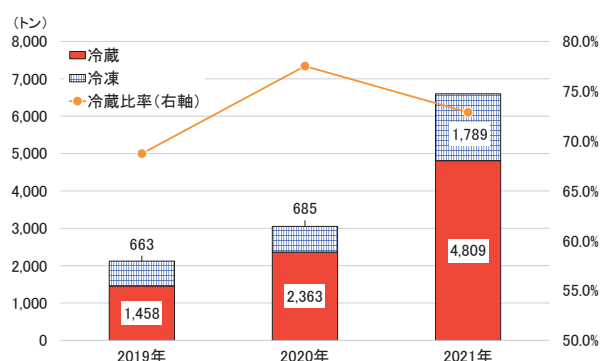
ン）を大幅に上回っている。

EU向けは、ヒルトン枠と高級牛肉無税枠^{（注1）}での輸出が大半を占めている。ウルグアイのヒルトン枠消化率は、18/19年度（7月～翌6月）まで98%以上であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響などから19/20年度（70.9%）、20/21年度（91.2%）といずれも消化率が低下している。

また、19年2月に19年ぶりとなる輸出が再開された日本向けは、冷蔵品を主体（輸入量の約7割）として6598トン（同116.5%増）と前年を大幅に上回った（図2）。なお、ウルグアイでは穀物肥育牛の生産が増加し21年には全体のと畜頭数の2割程度を占めた。

（注1） ヒルトン枠（EU規則593/2013）は、EUにおける高級牛肉の低関税輸入枠であり、放牧肥育であることなどが条件とされる。また、高級牛肉無税枠（同481/2012、QUOTA481）は、一定期間の穀物給与などが義務付けられている。

図2 日本向け牛肉輸出量（冷蔵・冷凍別）の推移



資料：ウルグアイ中央銀行

注1：HSコード0201、0202の合計。

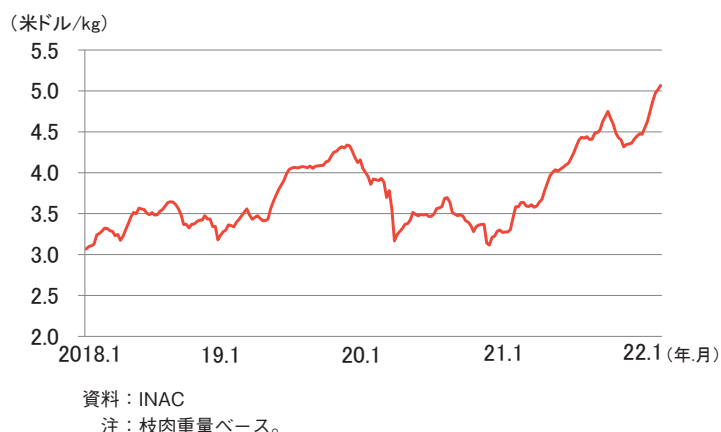
注2：製品重量ベース。

去勢牛生産者出荷価格は上昇傾向で推移

INACによると、2021年の去勢牛生産者出荷価格は、海外からの強い牛肉需要を背景として上昇傾向で推移した（図3）。この傾向は22年も継続しており、22年2月第1週は1キログラム当たり5.067米ドル（625円：1米ドル＝123.39円^{（注2）}、前年同期比53.6%高）と高水準で推移している。

（注2） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

図3 去勢牛生産者出荷価格の推移



(調査情報部 井田 俊二)

豚 肉

E U

スペインの豚肉生産量、ドイツを抜いてEU最大に

2021年の豚総飼養頭数は前年比2.9%減

欧州委員会が3月21日に公表した統計(Eurostat)によると、2021年12月時点の豚総飼養頭数(EU27カ国)は、1億4170万頭(前年比2.9%減)となった(表1)。

内訳を見ると、繁殖母豚は1102万頭(同3.5%減)、子豚(20キログラム未満)は4171万頭(同0.4%減)、子豚(20~50キログラム)は3042万頭(同2.6%減)、肥育豚(50キログラム以上)は5857万頭(同4.5%減)といずれも前年を下回った。

このような中、EU最大の飼養頭数を誇るスペインは、同5.1%増の3445万頭(EU全体に占める割合は24%)となり9年連続で増加した。一方、第2位のドイツは同8.9%減の2376万頭(同17%)、第3位のデンマ

ークは同1.8%減の1315万頭(同9%)などスペインを除く主要国は軒並み減少した。なお、上位10カ国で総飼養頭数の89%を占めている。

供給過多と価格の下落を反映し豚総飼養頭数が減少した一方で、EU域内でのCOVID-19に関連する規制の解除やイースター休暇に伴う豚肉需要の増加、また、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う飼料価格の高騰などを受け、豚枝肉卸売価格は急騰している。直近の3月21日の週の同価格は100キログラム当たり182.38ユーロ(2万5205円:1ユーロ=138.20円^(注1))と4週前と比較して33.6%高となった(図1)。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

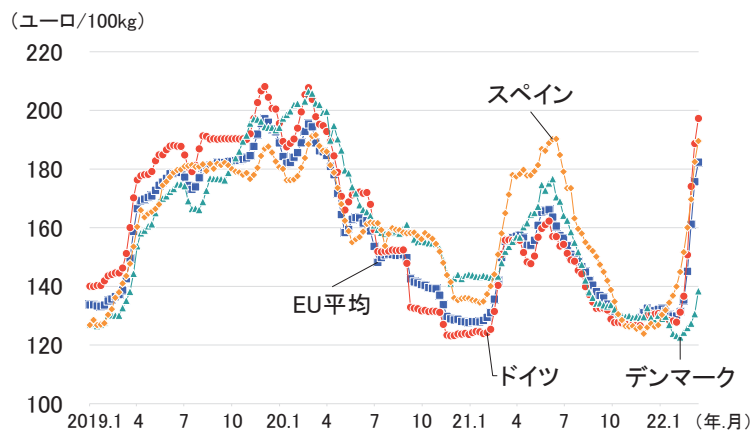
表1 EUにおける国別豚飼養頭数の推移

(単位：千頭)

国名	総飼養頭数			繁殖母豚			子豚 (20kg未満)			子豚 (20～50kg)			肥育豚 (50kg以上)		
	2020年	2021年	前年比 (増減率)	2020年	2021年	前年比 (増減率)	2020年	2021年	前年比 (増減率)	2020年	2021年	前年比 (増減率)	2020年	2021年	前年比 (増減率)
スペイン	32,796	34,454	▲5.1%	2,666	2,712	▲1.7%	8,484	9,639	▲13.6%	7,534	8,016	▲6.4%	14,111	14,087	▲0.2%
ドイツ	26,070	23,762	▲8.9%	1,714	1,602	▲6.5%	7,709	6,991	▲9.3%	4,701	4,173	▲11.2%	11,946	10,996	▲8.0%
デンマーク	13,391	13,152	▲1.8%	1,286	1,245	▲3.2%	4,674	4,608	▲1.4%	4,087	4,032	▲1.3%	3,344	3,267	▲2.3%
フランス	13,393	12,941	▲3.4%	979	941	▲3.9%	4,933	4,731	▲4.1%	2,138	1,961	▲8.3%	5,343	5,309	▲0.6%
オランダ	11,541	10,872	▲5.8%	928	918	▲1.1%	4,872	4,773	▲2.0%	1,696	1,549	▲8.7%	4,045	3,632	▲10.2%
ポーランド	11,727	10,242	▲12.7%	830	665	▲19.8%	2,377	2,145	▲9.7%	3,444	3,041	▲11.7%	5,077	4,391	▲13.5%
イタリア	8,543	8,408	▲1.6%	591	573	▲3.0%	1,424	1,384	▲2.8%	1,620	1,611	▲0.5%	4,908	4,839	▲1.4%
ベルギー	6,218	6,042	▲2.8%	399	389	▲2.4%	1,650	1,623	▲1.6%	1,086	1,213	▲11.8%	3,084	2,816	▲8.7%
ルーマニア	3,750	3,765	0.4%	316	322	1.6%	707	703	▲0.6%	728	737	1.3%	2,000	2,004	0.2%
オーストリア	2,806	2,786	▲0.7%	231	228	▲1.1%	664	655	▲1.4%	740	728	▲1.6%	1,172	1,175	0.2%
ハンガリー	2,850	2,726	▲4.4%	246	243	▲1.2%	717	703	▲1.9%	565	585	3.5%	1,322	1,195	▲9.6%
ポルトガル	2,252	2,221	▲1.4%	237	234	▲1.2%	821	817	▲0.4%	426	418	▲2.0%	768	752	▲2.1%
アイルランド	1,679	1,714	2.1%	148	146	▲1.3%	427	483	13.0%	436	423	▲3.2%	667	663	▲0.7%
チェコ	1,546	1,493	▲3.4%	136	128	▲5.8%	482	468	▲2.8%	362	329	▲8.9%	567	568	0.2%
スウェーデン	1,389	1,373	▲1.2%	124	122	▲1.1%	362	371	2.3%	348	330	▲5.3%	555	550	▲1.0%
フィンランド	1,104	1,091	▲1.2%	90	94	4.5%	300	338	12.8%	264	255	▲3.2%	451	403	▲10.5%
クロアチア	1,033	963	▲6.8%	113	108	▲4.4%	273	271	▲0.7%	191	158	▲17.3%	456	426	▲6.6%
ブルガリア	592	695	17.3%	67	68	1.3%	131	155	18.4%	129	197	53.4%	266	274	3.3%
ギリシャ	743	650	▲12.5%	97	75	▲22.7%	203	199	▲2.0%	176	135	▲23.3%	267	241	▲9.7%
リトアニア	580	574	▲1.1%	46	45	▲2.2%	112	116	3.9%	158	152	▲3.7%	265	261	▲1.6%
スロバキア	538	448	▲16.8%	51	37	▲26.9%	203	176	▲13.3%	98	71	▲27.8%	186	164	▲12.1%
キプロス	359	361	0.4%	33	31	▲3.6%	129	128	▲0.7%	71	73	2.9%	126	128	1.4%
ラトビア	307	325	6.0%	35	40	13.8%	56	59	6.7%	92	97	5.6%	124	129	3.7%
エストニア	317	308	▲2.7%	28	26	▲5.5%	103	104	0.7%	56	59	5.8%	130	119	▲8.3%
スロベニア	229	216	▲6.0%	16	15	▲10.2%	50	42	▲17.0%	44	40	▲8.5%	119	119	0.2%
ルクセンブルグ	82	78	▲4.6%	4	3	▲26.7%	17	12	▲28.0%	24	21	▲12.3%	37	42	13.2%
マルタ	40	40	▲0.1%	5	4	▲18.6%	10	10	▲1.2%	10	10	0.2%	15	16	6.1%
27カ国計	145,877	141,699	▲2.9%	11,415	11,015	▲3.5%	41,890	41,705	▲0.4%	31,222	30,415	▲2.6%	61,351	58,565	▲4.5%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：各年12月時点。

図1 豚枝肉卸売価格の週別推移



資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」
注1：EU参考価格（CLASS E）。
注2：デンマークの2020年2月17日はデータなし。

2021年の豚肉生産量は、前年比1.6%増

欧州委員会によると、2021年の豚肉生産量は上半期の輸出需要などを受け、前年比1.6%増の2340万7690トンとなった（表2）。

主要生産国別に見ると、唯一減産となったドイツを除き、いずれの国も増産となった。

EU最大の豚肉生産国となったスペイン（519万4440トン）は、同3.8%増と8年連続で増加した（図2）。同国はインテグレーション化の進展に伴い生産量を増加させる中（注2）、20年9月のドイツでのアフリカ豚

熱発生以降、ドイツに代わり中国向けの輸出量を伸ばしたことも生産を後押しした。

第2位に転落したドイツ（496万5000トン）は同2.9%減となり、5年連続で減少した。ドイツ養豚生産者協会によると、中国向け輸出の停止などにより滞留していた肥育豚のと畜が21年にずれ込んだことから、本来であれば生産量の減少幅はもう少し大きかったとしており、22年の生産量も減少すると見込んでいる。

（注2） 本誌82ページ「スペインの養豚産業の現状および輸出戦略」を参照されたい。

表2 主要生産国別豚肉生産量の推移

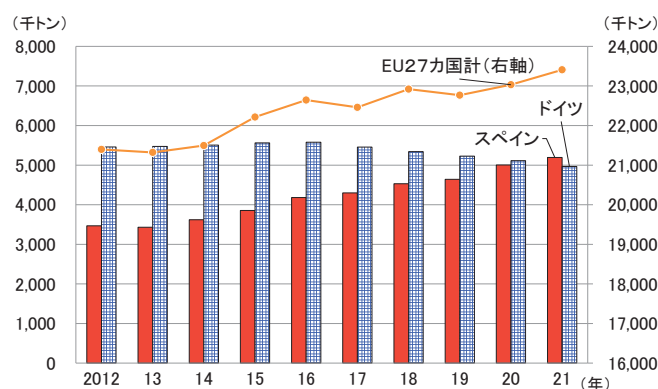
（単位：千トン）

	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
スペイン	4,641	5,003	5,194	3.8%
ドイツ	5,227	5,112	4,965	▲2.9%
フランス	2,200	2,201	2,204	0.1%
ポーランド	1,979	1,974	1,976	0.1%
デンマーク	1,499	1,595	1,724	8.0%
オランダ	1,628	1,662	1,719	3.5%
イタリア	1,448	1,271	1,335	5.1%
その他	4,146	4,212	4,290	1.8%
合計	22,768	23,031	23,408	1.6%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

図2 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 小林 智也）

鶏 肉

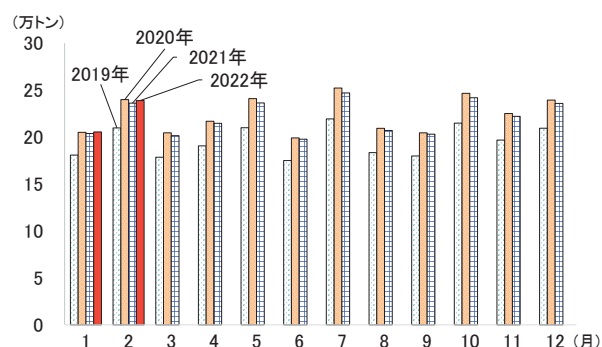
タ イ

2022年に入り鶏肉価格は高値で推移

22年の鶏肉生産は、前年比微増でスタート

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2021年の鶏肉生産量は264万6098トン（前年比1.3%減）とわずかに減少した。また、22年1～2月の鶏肉生産量は44万4156トン（前年同期比1.0%増）とわずかに増加した（図1）。

図1 鶏肉生産量の推移



資料：タイ農業協同組合省農業経済局

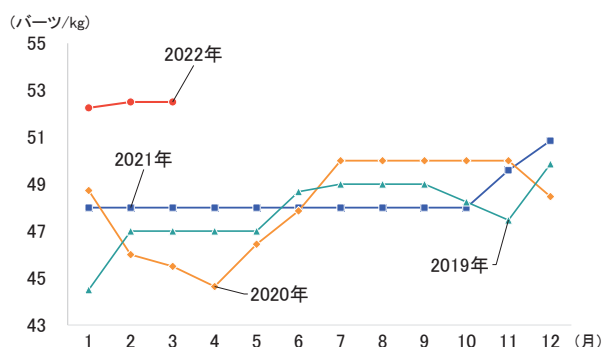
22年の国内の鶏肉卸売価格は高値で推移

2022年2月の鶏肉卸売価格は、1キログラム当たり52.5バーツ（197円：1バーツ＝3.76円^{（注1）}）と近年にない水準にまで上昇した（図2）。タイでは、飼料価格の高騰による生産コスト増の影響もある中で、21年11月のアフリカ豚熱の発生を受けて豚肉価格が高騰し、代替需要として鶏肉の需要が高まっていたため、鶏肉価格も高値で推移している^{（注2）}。しかしながら、タイ農業協同組合

省農業経済局によると、最近の豚肉価格は依然として高値ではあるものの一時期に比べて下落しており、鶏肉需給に対し長期的に大きな影響を及ぼすことはないといわれている。

- （注1） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。
（注2） 海外情報「2022年の豚総出荷頭数、アフリカ豚熱などの影響で減少見込み（タイ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003182.html）を参照されたい。

図2 鶏肉卸売価格の推移



資料：タイ農業協同組合省農業経済局

21年の冷凍鶏肉輸出はかなり大きく増加

2021年の冷凍鶏肉の輸出量は、37万2739トン（前年比11.8%増）とかなり大きく増加した（表1）。しかし、22年1～2月の輸出量は4万9417トン（前年同期比14.1%減）とかなり大きく減少し、最大の輸出先である日本向けは2万2320トン（同25.6%減）と大幅に減少した。タイでは、依然としてCOVID-19により外国人労働者の不足が継続し、加工工程が簡易な製品を優

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位: 万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)	2022年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
日本	13.7	12.2	12.8	16.7	29.8%	2.2	▲ 25.6%
マレーシア	3.2	4.1	4.1	4.7	14.7%	1.0	73.5%
中国	2.1	7.6	11.5	10.4	▲ 8.9%	0.9	▲ 30.9%
香港	0.5	0.5	0.9	1.0	9.0%	0.2	▲ 10.6%
韓国	0.6	1.1	0.8	1.3	55.5%	0.1	▲ 53.7%
中東地域	0.5	0.6	0.4	0.6	41.8%	0.1	33.9%
EU	0.7	0.6	0.3	0.5	38.7%	0.1	130.9%
その他	5.2	3.6	2.5	2.2	▲ 12.5%	0.3	▲ 2.4%
合計	26.5	30.3	33.3	37.3	11.8%	4.9	▲ 14.1%

資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコードは020714。

注2: EUに英国は含まない。

先する傾向が続いている。また、鶏肉生産は比較的安定しているとみられるものの、労働条件の良い工業分野に人材が流れていることも、労働者の確保に苦心している要因の一つとされている。一方でブラジルでも同様に鶏肉産業の人手不足の影響が大きくなりつつある中で、タイ産への需要が高まっている。最近ではウクライナ情勢による中東やEUの需要増から、これら地域への輸出が増加している。また、3月には鳥インフルエンザの発生により長年にわたって輸出が停止されていたサウジアラビア向けの輸出も解禁されるなど、輸出環境に変化が生じている。

21年の鶏肉調製品の輸出はわずかに増加

2021年の鶏肉調製品輸出量は55万147トン（前年比0.7%増）とわずかに増加し、22年1～2月の輸出量は10万6927トン（前年同期比24.2%増）と大幅に増加した（表2）。輸出先別に見ると、日本向けをはじめ多くの主要輸出先で増加している。タイ国内の鶏肉処理加工施設での労働者不足などにより、鶏肉調製品生産への影響が懸念されているが、各施設において労働者への感染対策が講じられており、高付加価値となる輸出向けについては、一定の稼働が確保されているとみられている。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位: 万トン)

	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)	2022年 (1～2月)	前年同期比 (増減率)
日本	28.1	29.5	29.2	28.8	▲ 1.2%	5.3	14.7%
英国	15.8	16.5	14.2	13.6	▲ 4.7%	2.7	43.9%
オランダ	3.4	3.6	2.8	3.9	39.0%	0.9	50.7%
韓国	2.5	3.0	2.4	2.1	▲ 11.6%	0.5	20.3%
その他	5.1	6.4	6.1	6.7	9.8%	1.3	17.1%
合計	56.0	59.0	54.6	55.0	0.7%	10.7	24.2%

資料: 「Global Trade Atlas」

注: HSコードは160232。

(調査情報部 海老沼 一出)

牛乳・乳製品

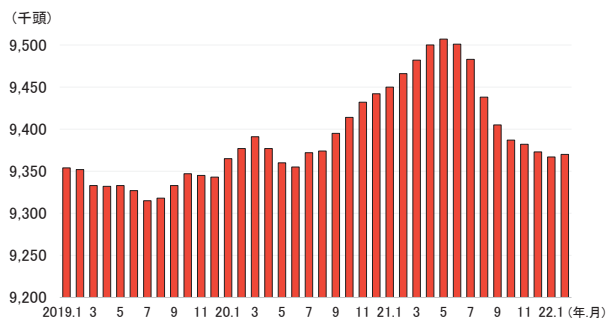
米 国

乳価は過去最高水準で推移

飼養頭数および生乳生産量は前年比1.0%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2022年2月の乳用経産牛飼養頭数は、前年同月比1.0%減の937万頭となった（図1）。同飼養頭数は前月より増加したものの、飼料コストの上昇が続いていることから、同月の生乳生産量は同1.0%減となった。

図1 乳用経産牛飼養頭数の推移



資料：USDA/NASS「Milk Production」

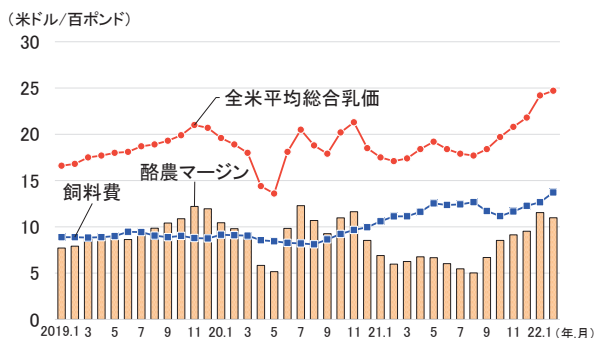
乳価は上昇傾向で推移

USDAによると、2022年2月の全米平均総合乳価は生乳100ポンド当たり24.7米ドル（1キログラム当たり67.19円：1米ドル＝123.39円^{（注1）}）と国内外からの堅調な需要を背景に21年夏から上昇傾向で推移している。飼料コストが上昇する中で、乳価の上昇率がそれを上回っていることから、同月の酪農マージン^{（注2）}は、前年同月比83.9%増の同10.98米ドル（同29.87円）となった（図

2）。22年の乳価について現地報道では、米国内の乳牛飼養頭数の減少、国内外の生乳生産量の減少および国内外の乳製品需要の増加により、高値で推移すると予測している。

- （注1） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均為替相場」の2022年3月末TTS相場。
（注2） 酪農家のセーフティーネット制度である酪農マージン保障プログラム（DMC）で算定される全米平均総合乳価と飼料費の差額としての収益。DMCでは、酪農マージンが発動基準を下回った場合、補填が発動される。

図2 酪農マージンの推移



資料：USDA

注：酪農マージンは、全米平均総合乳価と飼料費の差額。

22年1月のホエイの輸出量は大きく減少

2021年に過去最高を記録した乳製品輸出量^{（注3）}は、22年に入りわずかに変化が生じてきた。米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、同年1月の乳製品輸出力は、主要輸出品である脱脂粉乳およびホエイが前年同月を下回った（表）。

脱脂粉乳の輸出量は、主要輸出先であるメキシコ向けが、同国でのコロナ禍からの経済回復に伴い大きく伸びていたが、輸入需要の

落ち着きなどから5万9400トン（前年同月比5.5%減）となった。

また、ホエイの輸出量は、1万2100トン（同33.8%減）と大幅に減少した。米国乳製品輸出協会（USDEC）によると、ホエイ輸出量の減少は二つの要因があるとしている。一つ目は主要輸出先である中国向けの減少である。中国では、ホエイは養豚生産の飼料向け利用が多いが、養豚経営の収益率の低下による増産意欲の減退で使用量が減少している

としている。二つ目は、米国内消費者の健康志向の高まりからタンパク質濃縮ホエイ（WPC）に生産が移行しているため、ホエイ供給量が減少しているとしている。

一方で、チーズやバターの輸出量が増加したことにより、乳製品輸出額は上昇を続けている。

（注3） 海外情報「米国の乳製品輸出、2年連続で過去最高を記録（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003187.html）を参照されたい。

表 主要乳製品輸出量の推移

（単位：千トン）

	2021年 1月	2021年 (1～12月)	前年比 (増減率)	2022年 1月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	62.9	892.5	9.8%	59.4	▲5.5%
乳糖	26.1	393.1	4.3%	29.4	12.6%
チーズ	25.2	404.7	13.6%	29.4	16.7%
ホエイ	18.3	225.3	5.2%	12.1	▲33.8%
WPC	10.8	135.7	▲6.7%	9.7	▲10.0%
バター	2.8	44.6	109.5%	3.5	25.0%

資料：USDA「Dairy Data」

注：製品重量ベース。

（調査情報部 上村 照子）

E U

生乳取引価格、12カ月連続で前年同月を上回る

1月の生乳出荷量、前年同月比0.7%減

欧州委員会によると、2022年1月の生乳出荷量（EU27カ国）は前年同月をわずかに下回る1165万6240トン（前年同月比0.7%減）となった（図1、表1）。

同月の生乳出荷量を国別に見ると、イタリア（同0.5%増）、ポーランド（同2.7%増）、スペイン（同1.8%増）など主要国の多くが前年同月を上回った一方で、上位のドイツ（同

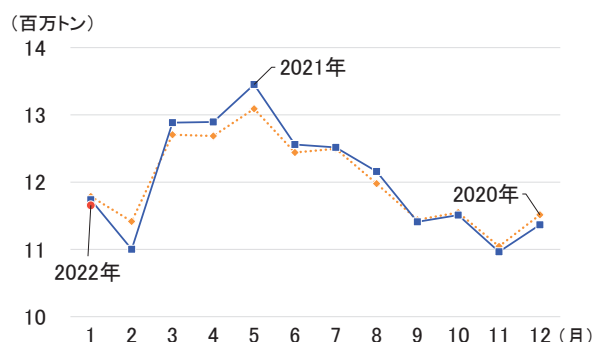
2.2%減）、フランス（同2.2%減）、オランダ（同2.7%減）はいずれも下回った。これは、環境規制強化などの影響による飼養頭数の減少が要因とみられる。

乳製品の需要が堅調な中、生乳出荷量が5カ月連続で前年同月を下回っており、生乳取引価格は上昇傾向で推移している。2月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、前年同月比20.8%高の100キログラム当たり42.25ユーロ（5839円：1ユーロ＝138.20円^{（注）}）と過去最高値を更新し、12

カ月連続で前年同月を上回った（図2）。しかし、このような中でも酪農家の経営状況は厳しさを増しつつある。欧州委員会によると、直近の3月12日の週の飼料コストが過去4週間の平均と比較して15%増となっていることから、1トン当たりの生乳取引価格と飼料コストの差は縮小傾向となっている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

図1 生乳出荷量の月別推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

表1 主要生産国別生乳出荷量の推移

（単位：千トン）

	2021年 1月	2022年 1月	前年同月比 (増減率)
ドイツ	2,731	2,672	▲ 2.2%
フランス	2,107	2,061	▲ 2.2%
オランダ	1,188	1,156	▲ 2.7%
イタリア	1,109	1,114	0.5%
ポーランド	1,050	1,079	2.7%
スペイン	619	631	1.8%
デンマーク	477	477	0.1%
ベルギー	373	377	1.0%
オーストリア	268	282	5.2%
その他	1,815	1,808	▲ 0.4%
合計	11,738	11,656	▲ 0.7%

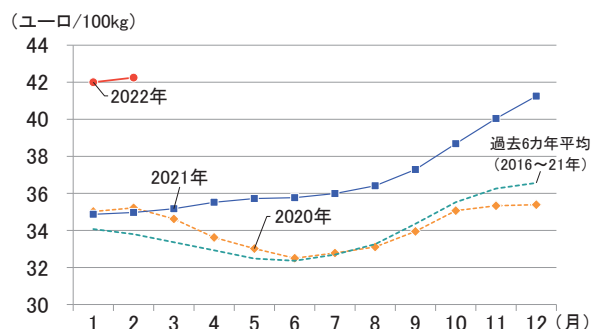
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

注3：年間生産量第6位のアイルランドは、季節繁殖を取り入れていることから1月の生産量は少ない（1月の生産量は第13位）。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

チーズのEU域外向け輸出量は前年を上回る

欧州委員会によると、2021年の英国を除くEU域外向けの乳製品輸出量は、チーズが95万9812トン（前年比5.6%増）と前年を上回った一方で、脱脂粉乳が77万4396トン（同3.6%減）、全粉乳が27万9719トン（同11.0%減）、バターが18万1062トン（同10.2%減）と前年を下回った（表2）。22年の乳製品輸出について欧州委員会は、生乳出荷量の減少に伴う乳製品の生産減や乳製品価格の高騰を受けて輸出量は減少する可能性が高いとしている。

なお、ウクライナ情勢が需給に及ぼす影響として、ウクライナ向けはチーズの輸出量がわずかにあるが輸出への影響はほとんどないとする一方で、同国からEU域内への避難民が増加していることは、域内のチーズ消費量をわずかに上昇させるとみている。

表2 主な乳製品の輸出量（英国を除く）の推移

(単位：千トン)

輸出先	脱脂粉乳			輸出先	チーズ			輸出先	全粉乳			輸出先	バター		
	2020年	2021年	前年比 (増減率)		2020年	2021年	前年比 (増減率)		2020年	2021年	前年比 (増減率)		2020年	2021年	前年比 (増減率)
中国	121	125	3.0%	米国	118	133	12.9%	オマーン	48	39	▲18.0%	米国	38	42	11.0%
アルジェリア	119	90	▲24.5%	日本	128	118	▲7.6%	ナイジェリア	21	26	20.7%	中国	15	16	11.6%
インドネシア	45	65	43.2%	スイス	69	73	5.0%	中国	16	22	39.5%	韓国	8	11	38.6%
フィリピン	41	50	21.1%	韓国	47	53	13.8%	アルジェリア	38	16	▲56.7%	サウジアラビア	18	9	▲46.5%
ナイジェリア	44	45	3.7%	ウクライナ	53	49	▲7.4%	UAE	10	12	23.7%	モロッコ	10	9	▲11.1%
その他	433	400	▲7.7%	その他	494	534	8.1%	その他	182	164	▲9.7%	その他	114	94	▲17.6%
合計 (英国を除く)	803	774	▲3.6%	合計 (英国を除く)	908	960	5.6%	合計 (英国を除く)	314	280	▲11.0%	合計 (英国を除く)	202	181	▲10.2%

資料：欧州委員会「Milk market observatory」

(調査情報部 小林 智也)

N Z

生乳生産量は低迷も、旺盛な乳製品需要は継続

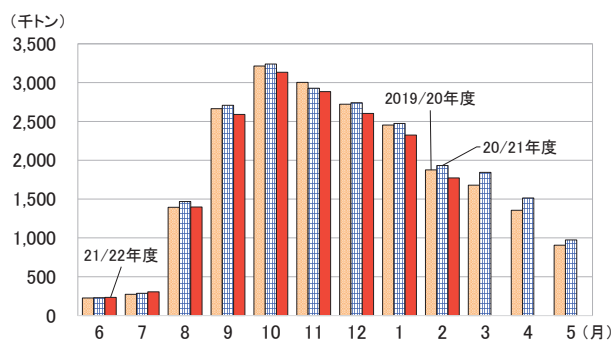
2022年2月の生乳生産量、7カ月連続で減少

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2022年2月の生乳生産量は177万3000トン（前年同月比8.2%減）と減少し、7カ月連続で前年同月を下回った（図1）。また、21/22年度（6月～翌5月）の2月までの累計も1724万4200トン（前年同期比4.2%減）と減少した。

この要因についてニュージーランド証券取引所（NZX）は、乾燥した天候が継続したことで、NZ全土の放牧環境が不良となったことを挙げている。また、生乳生産量の低迷を受けて、生産者支払乳価^{（注1）}は好調であるものの、飼料価格の高騰が続いているため、補助飼料の給餌を積極的に行う酪農家は増えていないとし、生乳生産は今後も厳しい状況が続くとみている。

（注1） 海外情報「フォンテラ社、生産者支払乳価を3カ月連続の引き上げ（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003191.html）を参照されたい。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

乳製品輸出量、主要2品目が前年同月を大幅に上回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2022年2月の乳製品輸出量は、全粉乳を除く主要3品目が前年同月を上回った（表、図2）。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、最大の輸出先である中国向けが前年同月比で3割程度減

少したものの、インドネシアやマレーシア向けなどがそれぞれ同2倍程度増加したことで、全体では大幅に増加した。全粉乳は、最大の輸出先である中国向けを含め全体でもかなりの程度減少した。また、バターおよびバターオイルは、米国向けが大幅に減少したも

の、最大の輸出先である中国向けを中心に全体で大幅に増加した。チーズは、最大の輸出先である中国向けはかなりの程度減少したものの、輸出量第2位の日本向けの大幅増などから全体ではわずかに増加した。

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2021年 2月	2022年 2月	前年同月比 (増減率)	2021/22年度 (7月～翌2月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	23,893	30,256	26.6 %	217,416	1.0 %
全粉乳	143,267	130,237	▲ 9.1 %	998,674	▲ 6.1 %
バターおよびバターオイル	36,179	42,215	16.7 %	255,550	▲ 7.7 %
チーズ	29,152	29,499	1.2 %	225,749	▲ 1.7 %

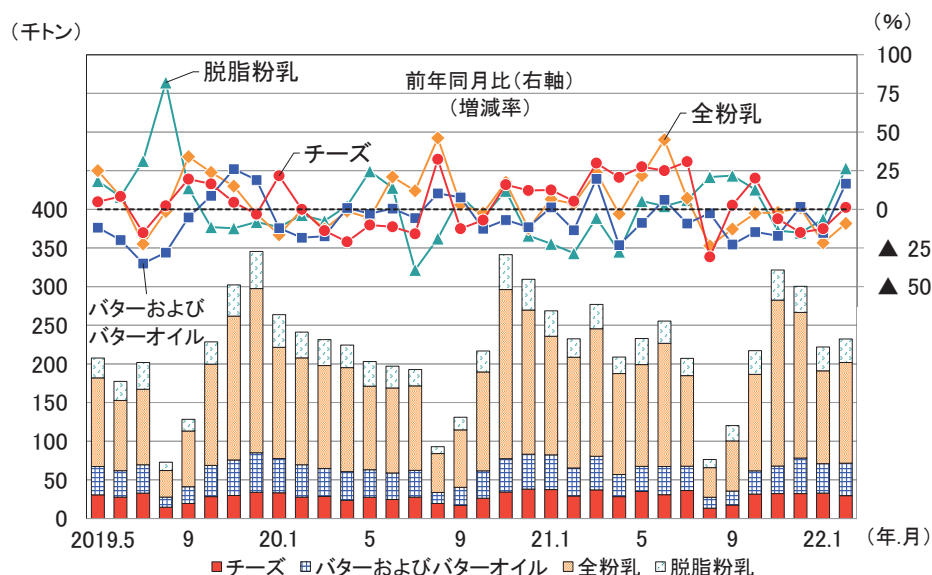
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

GDT、主要4品目いずれも高値で推移

2022年3月15日に開催されたグローバルデイリートレード^(注2)の主要乳製品4品目

の1トン当たり平均取引価格は、図3の通りとなった。

品目別に見ると、脱脂粉乳は、北アジア^(注3)やEUからの需要を背景に堅調に推移した。

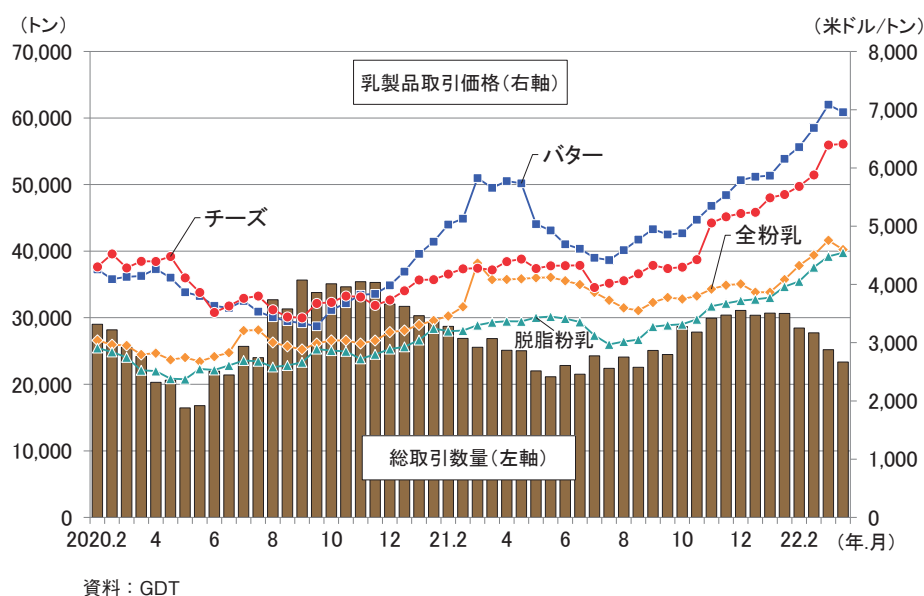
また、全粉乳は、アフリカなどからの引き合いが弱まり、前回よりやや下落した。バターは、北アジアのほか、北米やEUからの引き合いも強く、1トン当たり7000米ドルを記録した前回に引き続き高値で推移している。チーズは、北アジアなどからの需要にけん引

され前回並みとなった。

(注2) 月2回開催されるフォンテラ社主催の電子オークション。乳製品の国際価格の指標とされている。

(注3) ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 廣田 李花子)

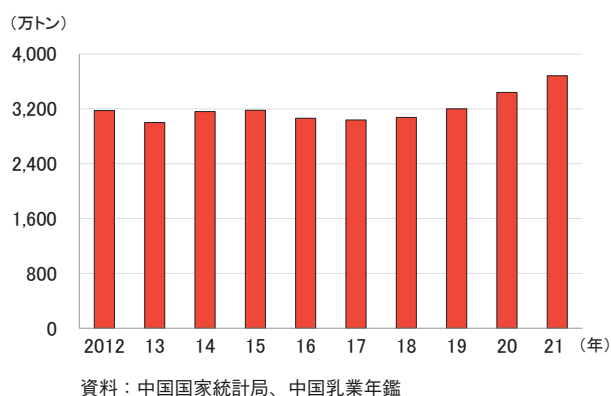
中国

21年の生乳生産量と乳製品輸入量はともに増加、乳価も高値で推移

生乳生産量は増加

中国国家统计局によると、2021年の生乳生産量は、1頭当たり乳量の増加などから前年比7.1%増の3683万トンとなった(図1)。また、中国農業農村部は2月16日、今後の酪農・乳業振興政策の柱となる5カ年計画^(注1)を公表し、25年までに生乳等生産量^(注2)を4100万トン程度に引き上げるなど、引き続き酪農・乳業の発展に注力していく姿勢を見せている。

図1 生乳生産量の推移



(注1) 「＜十四五＞全乳業競争力提昇行動方案」(2022年農牧
発8号)を指す。詳細は、海外情報「酪農・乳業の競争
力強化に向けた5カ年計画を公表(中国)」([https://
www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003220.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003220.html))を
参照されたい。

(注2) 牛由来の生乳のほか、ヤギやヤクなど由来の乳を含む生
産量。

生乳価格は好調も収益性は低下

中国の生乳価格の動きとして、従来、需要
期である春節(1月後半から2月)に向けて
上昇しその後下降するという季節変動が見ら
れたが、2021年は堅調な需要^(注3)にけん引
され、年間を通して変動が少なく高値で推移
した(図2)。農業農村部によると、同年の
年間平均価格は1キログラム当たり4.29元
(84円:1元=19.56円^(注4)、前年比13.2%
高)と記録的な高水準となった。

一方で、飼料などの投入コストの高騰から
酪農家の収益性は低下しており、22年の生
乳価格が同4元(78円)を下回った場合、
多くの酪農家が赤字経営に陥るとする専門家
の意見もある。今後の飼料価格の動向につい
て現地報道では、最近のCOVID-19の状況
やそれに伴う都市封鎖などにより、見通せない
部分があるとしながらも、上昇基調にある
国際相場に加え、飼料価格の低下に寄与する
ほどのトウモロコシの備蓄放出が見込めない

ことなどから、引き続き高値で推移するとい
う見方が多い。

(注3) 海外情報「1人当たり畜産物年間消費量が増加(中国)」
([https://www.alic.go.jp/chosa-c/
joho01_003175.html](https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003175.html))を参照されたい。

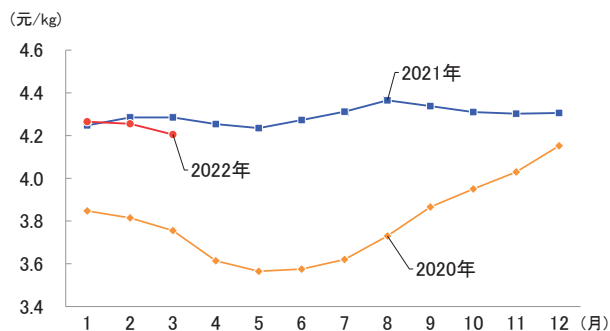
(注4) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・
月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

乳製品輸入量は一部を除き昨年より増加

国内の旺盛な乳製品需要にけん引され、
2021年の主要乳製品輸入量は、ヨーグルト
と育児用調製粉乳(以下「育粉」という)以
外の品目で前年比1割以上増加した(表)。
同年の輸入の特徴としては、国産と外国産の
原料価格差の拡大による全粉乳などの増加
と、新生児数の減少などによる育粉の減少が
挙げられる。

22年の動向について現地専門家は、引き
続き生産を超える需要が見込まれることから
輸入量は増加するものの、国際価格の高騰か
ら輸入乳製品の価格優位性が低下し、伸び率
は21年より縮小するとみている。また、現
地専門家からは、需要が好調な中、ニュージ
ーランドなど主要乳製品輸入先の供給量が限
られているとした上で、国内でのさらなる生
乳増産に向け、優良な繁殖システムの構築や
飼料利用効率の向上など、国内酪農の推進が
求められるとする意見も出ている。

図2 生乳価格の推移



資料: 中国農業農村部

注: 主要10省・自治区(全国の生乳生産量の8割以上を占
める)の農家庭先価格の平均。

表 主な乳製品の品目別輸入数量の推移

(単位：万トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	前年比 (増減率)
全粉乳	47.0	52.1	67.1	64.4	84.9	31.9%
脱脂粉乳	24.7	28.0	34.4	33.6	42.6	26.9%
飲用乳	52.9	54.4	72.9	84.5	99.6	17.8%
ヨーグルト	2.8	2.7	3.2	2.8	2.5	▲11.0%
チーズ	10.8	10.8	11.5	12.9	17.6	36.3%
バター	6.6	8.7	6.2	8.6	9.7	13.9%
育児用調製粉乳	30.3	33.3	35.6	34.8	27.3	▲21.7%
ホエイ	52.7	55.5	45.1	62.3	71.8	15.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトが0403.10、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

(調査情報部 阿南 小有里)

飼料穀物

世界

アルゼンチンなどで単収減も、世界のトウモロコシ生産量は引き続き過去最高の見通し

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年3月9日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は12億614万トン（前年度比7.4%増）と前月から79万トン上方修正され、引き続き過去最高の生産が見込まれている。最大の生産国である米国、第2位の中国と第3位のブラジルは、いずれも前月から据え置かれたが、EUに次ぐ第5位のアルゼンチンは、乾燥気候に伴う単収の減少から同100万トン下方修正された。また、主要生産国の南アフリカも、同じく乾燥気候に伴う単収減による生産量の減少が見込まれている。

輸出量は、世界全体で1億9990万トン（同

10.0%増）と前月から377万トン下方修正された。うち、ウクライナは黒海沿岸の穀物積出港の港湾機能停止の影響などから600万トン下方修正された。一方で、米国はウクライナの輸出減を補うとの見込みから190万トン上方修正された。

輸入量は、世界全体で1億8563万トン（前年度並み）と前月から254万トン下方修正された。うち、最大の輸入国である中国は2600万トン（前年度比11.9%減）と前月から据え置かれた。

消費量は、世界全体で11億9662万トン（同5.1%増）と前月から145万トン上方修正され、引き続き前年度を上回ると見込まれている。うち、最大の消費国である中国は2億9400万トン（同3.2%増）と前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は3億97万トン（同3.3%増）と前月から125万トン下方修正さ

れたが、前年度をやや上回ると見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2022年3月9日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2019/20年度	2020/21年度	2021/22年度		
		（推計値）	（2月予測）	（3月予測）	前年度比 （増減率）
米国	期首在庫	56.41	48.76	31.36	31.36 ▲ 35.7%
	生産量	345.96	358.45	383.94	383.94 7.1%
	輸入量	1.06	0.62	0.64	0.64 3.2%
	消費量	309.55	306.54	315.23	315.86 3.0%
	輸出量	45.13	69.92	61.60	63.50 ▲ 9.2%
	期末在庫	48.76	31.36	39.11	36.57 16.6
アルゼンチン	期首在庫	2.37	3.62	1.42	1.02 ▲ 71.8%
	生産量	51.00	51.50	54.00	53.00 2.9%
	輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01 0.0%
	消費量	13.50	13.50	14.00	14.00 3.7%
	輸出量	36.25	40.60	39.00	39.00 ▲ 3.9%
	期末在庫	3.62	1.02	2.43	1.03 1.0%
ブラジル	期首在庫	5.31	5.33	4.83	4.73 ▲ 11.3%
	生産量	102.00	87.00	114.00	114.00 31.0%
	輸入量	1.66	2.90	2.00	2.00 ▲ 31.0%
	消費量	68.50	69.50	72.50	72.50 4.3%
	輸出量	35.14	21.00	43.00	43.00 104.8%
	期末在庫	5.33	4.73	5.33	5.23 10.6%
ウクライナ	期首在庫	0.89	1.48	0.83	0.83 ▲ 43.9%
	生産量	35.89	30.30	42.00	41.90 38.3%
	輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02 0.0%
	消費量	6.40	7.10	7.90	10.90 53.5%
	輸出量	28.93	23.86	33.50	27.50 15.3%
	期末在庫	1.48	0.83	1.45	4.35 424.1%
中国	期首在庫	210.18	200.53	205.70	205.70 2.6%
	生産量	260.78	260.67	272.55	272.55 4.6%
	輸入量	7.58	29.51	26.00	26.00 ▲ 11.9%
	消費量	278.00	285.00	294.00	294.00 3.2%
	輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02 -
	期末在庫	200.53	205.70	210.24	210.24 2.2%
世界計	期首在庫	322.35	306.33	292.05	291.45 ▲ 4.9%
	生産量	1,119.60	1,123.28	1,205.35	1,206.14 7.4%
	輸入量	167.66	185.69	188.17	185.63 0.0%
	消費量	1,135.62	1,138.16	1,195.17	1,196.62 5.1%
	輸出量	172.25	181.76	203.67	199.90 10.0%
	期末在庫	306.33	291.45	302.22	300.97 3.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/中国、ウクライナ：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 水野 崇）

南米での大豆減産見通しで、 輸出と期末在庫は引き続き下方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年3月9日、21/22年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界の大豆生産量は3億5380万トン（前年度比3.4%減）と前月から1006万トン下方修正された。最大の生産国であるブラジルは、同国南部での乾燥気候の影響により前月から700万トン下方修正され、3カ月連続での大幅見直しとなった。また、アルゼンチンも収穫面積と単収の減少から同150万トン下方修正された。さらに、隣国のパラグアイやウルグアイもブラジルと同様、乾燥気候の影響から引き続き減産（両国計160万トンの下方修正）が見込まれることで、これら4カ国の減少分が反映される形となった。

輸出量は、世界全体で1億5863万トン（同3.6%減）と前月から640万トン下方修正された。最大の輸出国であるブラジルは、生産量の減少見通しにより同500万トン下方修

正されたほか、アルゼンチンも同100万トン下方修正された。一方、米国は同109万トン上方修正されており、南米の減少分の一部を補う形となった。

輸入量は、世界全体で1億5673万トン（同5.2%減）と前月から603万トン下方修正された。うち、最大の輸入国である中国は、ブラジルなどの輸出量の減少見通しが反映されたことで、9400万トン（同5.8%減）と同300トン下方修正された。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億1526万トン（前年度比同）と前月から498万トン下方修正された。最大の消費国である中国は9200万トン（同1.1%減）と同200万トン下方修正され、また、ブラジルもわずかに下方修正された。

この結果、期末在庫は8996万トン（同11.6%減）と前月から287万トン下方修正された。期末在庫は、中国などの大豆輸入需要を背景に南米などの生産拡大から上昇基調で推移してきたが、21/22年度は15/16年度以来の8000万トン台と見込まれている。

表 主要国の大豆需給見通し（2022年3月9日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2019/20年度	2020/21年度	2021/22年度			
		(推計値)	(2 月 予 測)	(3 月 予 測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	24.74	14.28	6.99	6.99	▲ 51.1%
	生産量	96.67	114.75	120.71	120.71	5.2%
	輸入量	0.42	0.54	0.41	0.41	▲ 24.1%
	消費量	58.91	58.26	60.28	60.28	3.5%
	輸出量	45.70	61.52	55.79	56.88	▲ 7.5%
	期末在庫	14.28	6.99	8.84	7.77	11.2%
ブラジル	期首在庫	32.47	20.00	27.95	27.95	39.8%
	生産量	128.50	138.00	134.00	127.00	▲ 8.0%
	輸入量	0.55	1.02	0.45	0.45	▲ 55.9%
	消費量	46.74	46.75	46.90	46.25	▲ 1.1%
	輸出量	92.14	81.65	90.50	85.50	4.7%
	期末在庫	20.00	27.95	22.35	21.00	▲ 24.9%
アルゼンチン	期首在庫	28.89	26.65	25.06	25.06	▲ 6.0%
	生産量	48.80	46.20	45.00	43.50	▲ 5.8%
	輸入量	4.88	4.82	3.10	2.90	▲ 39.8%
	消費量	38.77	40.16	40.00	40.00	▲ 0.4%
	輸出量	10.00	5.20	3.75	2.75	▲ 47.1%
	期末在庫	26.65	25.06	22.21	21.50	▲ 14.2%
中国	期首在庫	19.46	26.79	34.48	34.48	28.7%
	生産量	18.09	19.60	16.40	16.40	▲ 16.3%
	輸入量	98.53	99.76	97.00	94.00	▲ 5.8%
	消費量	91.50	93.00	94.00	92.00	▲ 1.1%
	輸出量	0.09	0.07	0.10	0.10	42.9%
	期末在庫	26.79	34.48	34.08	33.08	▲ 4.1%
世界計	期首在庫	114.74	96.83	100.42	101.74	5.1%
	生産量	339.88	366.23	363.86	353.80	▲ 3.4%
	輸入量	165.05	165.24	162.76	156.73	▲ 5.2%
	消費量	312.11	315.19	320.24	315.26	0.0%
	輸出量	165.17	164.48	165.03	158.63	▲ 3.6%
	期末在庫	96.83	101.74	92.83	89.96	▲ 11.6%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

国内消費量と輸出量の上方修正によりトウモロコシの期末在庫は9%台に

USDA/WAOBは2022年 3 月 9 日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである（表）。

生産量は、151億1500万ブッシェル（3億8394万トン^{（注1）}、前年度比7.1%増）と前月から据え置かれた。引き続き、前年度からかなりの程度増加が見込まれており、これまでの統計で最も生産量の多かった16/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）に近い水準となっている。

消費量は、124億3500万ブッシェル（3億1586万トン、同3.0%増）と前月並みと予測され、引き続き、エタノール向け需要の増

加（同6.3%増）が消費をけん引すると見込まれている。

輸出量は、米国がウクライナの輸出減を補うとの見込みから25億ブッシェル（6350万トン、同9.2%減）と前月からやや上方修正されたが、記録的な輸出量となった前年度からはかなりの程度減少が見込まれている。

期末在庫は、国内消費量と輸出量がいずれも上方修正されたことで、14億4000万ブッシェル（3657万トン、同16.6%増）と前月からかなりの程度減少する結果となった。

この結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は9.6%（同1.3ポイント増）とされ、10%台を割り込んだ。

また、生産者平均販売価格は、1 ブッシェ

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2022年3月9日米国農務省公表）

区 分	一単位一	2019/20 年度	2020/21 年度 (推計値)	2021/22年度			前年度比 (増減率)
				(2月予測)	(3月予測)	参考（換算値）	
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.7	93.4	93.4	37.8 (百万ヘクタール)	3.0%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.3	85.4	85.4	34.6 (百万ヘクタール)	3.8%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	171.4	177.0	177.0	11.1 (トン/ヘクタール)	3.3%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,111	15,115	15,115	383.94 (百万トン)	7.1%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	24	25	25	0.64 (百万トン)	4.2%
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,235	1,235	31.36 (百万トン)	▲35.6%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,055	16,375	16,375	415.94 (百万トン)	2.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,186	12,068	12,410	12,435	315.86 (百万トン)	3.0%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,900	5,598	5,650	5,650	143.52 (百万トン)	0.9%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,286	6,470	6,760	6,785	172.35 (百万トン)	4.9%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,033	5,325	5,350	135.90 (百万トン)	6.3%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,777	2,753	2,425	2,500	63.50 (百万トン)	▲9.2%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	14,821	14,835	14,935	379.36 (百万トン)	0.8%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,540	1,440	36.57 (百万トン)	16.6%
期末在庫率	(%)	13.7	8.3	10.4	9.6		1.3ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.53	5.45	5.65	27.4 (円/kg)	24.7%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1 エーカーは約0.4047ヘクタール。

ル当たり5.65米ドル（697円。1 キログラム当たり27.4円：1 米ドル＝ 123.39円（注2））と前月からやや上方修正された。

- （注1） 1 ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。
（注2） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

（調査情報部 水野 崇）

ブラジル

2021/22年度大豆生産量は前年度をかなり大きく下回る見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は3月10日、2021/22年度第6回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図1～2）。この調査は、春植えの夏期作物（大

豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

表 2021/22年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2020/21	2021/22			2020/21	2021/22			2020/21	2021/22		
		（2月予測）	（3月予測）	前年度比増減率		（2月予測）	（3月予測）	前年度比増減率		（2月予測）	（3月予測）	前年度比増減率
穀物合計	69,767.6	72,266.2	72,746.2	4.3%	3.7	3.7	3.7	▲ 0.2%	255,442	268,223.7	265,696.3	4.0%
トウモロコシ	19,933.3	20,895.6	21,116.7	5.9%	4.4	5.4	5.3	▲ 21.8%	87,055.1	112,342.8	112,341.1	29.0%
第1期作	4,348.4	4,533.5	4,529.4	4.2%	5.7	5.4	5.4	▲ 5.5%	24,726.5	24,434.1	24,331.5	▲ 1.6%
第2期作	14,999.6	15,776.8	16,002.0	6.7%	4.0	5.5	5.4	33.0%	60,741.6	86,052.8	86,153.8	41.8%
第3期作	585.3	585.3	585.3	0.0%	2.7	3.2	3.2	17.0%	1,586.9	1,856.1	1,856.1	17.0%
大豆	39,195.6	40,586.9	40,703.6	3.8%	3.5	3.1	3.0	▲ 14.4%	138,153.0	125,471.3	122,769.6	▲ 11.1%

資料：ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）

注1：2022年3月10日公表データ。

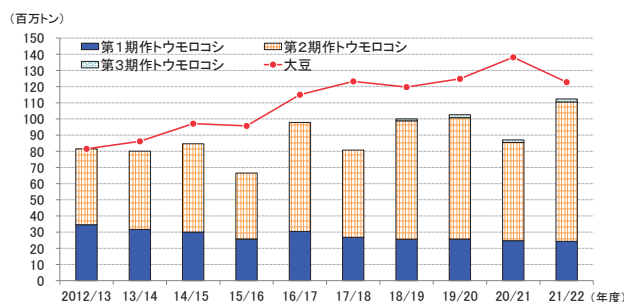
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

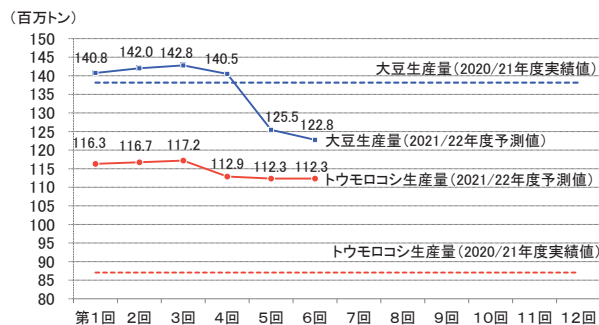


資料：CONAB

注1：2021/22年度は予測値。

注2：2022年3月10日公表データ。

図2 2021/22年度の生産予測値の推移



資料：CONAB

注：生産予測値の第1回目は10月公表、以降毎月更新。

第2期作トウモロコシ、7割程度の播種作業が終了

2021/22年度（第1～第3期作）のトウモロコシ生産量は、前回から大きな修正はなく、1億1234万1100トン（前年度比29.0%増）と第2期作を中心に前年度を大幅に上回ると見込まれている。これは、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった19/20年度の記録を更新する水準である。

全生産量の4分の1弱を占める第1期作トウモロコシは、作付面積の23.3%（22年2月末時点）で収穫が行われ、生産量は2433万1500トン（同1.6%減）と前年度をわずかに下回ると見込まれている。これは、作付面積が増加したものの、南部のリオグランデドスル州およびパラナ州において21年11月からの干ばつや高温などの影響で単収が大幅に減少したためである。

また、全体の4分の3程度を占める第2期作は、作付面積の74%以上（22年2月末時点）で播種^{はしゅ}が行われた。生産量は8615万3800トン（同41.8%増）と不作であった前年度を大幅に上回ると見込まれている。主要な生産地の中でも特に最大の生産州である中西部のマットグロッソ州やそれに次ぐ南部のパラナ州では、播種作業が順調に進み全体の増産予測をけん引している。

大豆生産量、干ばつなどの影響により3回連続で下方修正

2021/22年度の大豆生産量は、前回より270万1700トン少なく3回連続で下方修正され、1億2276万9600トン（前年度比11.1%減）と前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。これは、南部各州および中西部のマットグロッソドスル州で21年11月～22年1月ごろに発生した干ばつや高温などの影響により、単収がさらに減少すると見込まれるためである。なお、大豆は作付面積の42%以上（22年2月末時点）で収穫が行われた。

地域別に見ると、南部のリオグランデドスル州では、22年2月に降雨があったものの、それまで3カ月近くまとまった雨がなく、さらに猛暑が続いたことから深刻な被害を受け、単収の減少や品質の低下を招いた。このため、生産量は前回よりさらに下方修正され、ほぼ半減（同46.0%減）すると見込まれている。一方、最大の生産州である中西部のマットグロッソ州では、収穫時の降雨による作業の遅れや作物の品質低下が生じるものの、収穫作業は3月に終了し、高水準の単収を維持すると見込まれている。

21/22年度の大豆需給動向を見ると、今回、生産量のほか加工量が下方修正された。これは、バイオディーゼル生産向けの大豆油使用割合の低下が見込まれているためである。

参考1 ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

年度	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	増減率 (%)
期首在庫量	14,582.1	10,189.4	10,602.4	7,806.2	▲ 26.4
生産量	100,042.7	102,515.0	87,055.1	112,341.1	29.0
輸入量	1,596.4	1,453.4	2,983.5	1,700.0	▲ 43.0
供給量	116,221.2	114,157.8	100,641.0	121,847.3	21.1
消費量	64,957.8	68,662.5	71,930.0	76,538.0	6.4
輸出量	41,074.0	34,892.9	20,904.8	35,000.0	67.4
期末在庫量	10,189.4	10,602.4	7,806.2	10,309.3	32.1

資料：CONAB

注：2022年3月10日公表データ。

参考2 ブラジルの大豆需給動向

(単位：千トン)

	2020/21	2021/22	増減率 (%)
期首在庫量	4,221	5,302	25.6
生産量	138,153	122,770	▲ 11.1
輸入量	864	900	4.2
種子/その他	3,516	3,463	▲ 1.5
輸出量	86,110	80,164	▲ 6.9
加工量	48,310	42,931	▲ 11.1
期末在庫量	5,302	2,414	▲ 54.5

資料：CONAB

注：2022年3月10日公表データ。

(調査情報部 井田 俊二)

中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向ほか

トウモロコシ、市場供給量の減少などから価格は上昇

中国農業農村部は3月25日、「農産物需給動向分析月報（2022年2月）」を公表した。この中で、2022年2月の国産トウモロコシ価格については、2月初旬の春節以降、企業や貿易業者が積極的に在庫を積み増しており、市場供給量の減少から上昇に転じている（図1）。また、短期的な価格動向として、ウ

クライナ情勢を背景とした小麦価格の上昇からトウモロコシ代替飼料としての小麦の利用が減少し、トウモロコシへの需要回帰がより進むことで堅調に推移すると予想している。

主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、22年2月が1キログラム当たり2.64元（52円：1元＝19.56円^{（注1）}）と前月からわずかに上昇した。同月

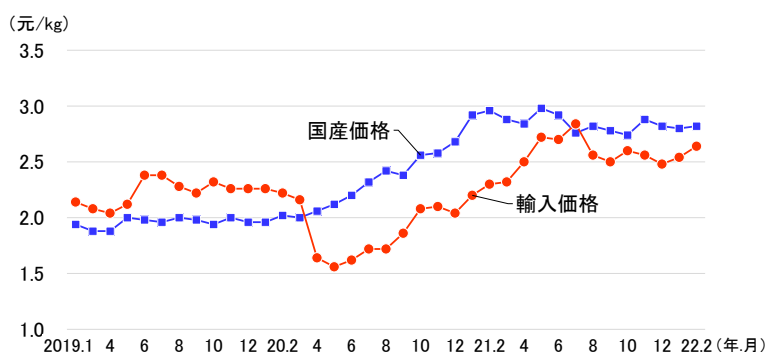
の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）同2.82元（55円）に比べて同0.18元（4円）安となり、前月からわずかに価格差が縮まっている。

一方、関税割当数量を超えた輸入トウモロコシ価格（65%の関税+25%の追加関税）は同4.24元（83円）と前月から同0.18元（4円）上昇した。国産トウモロコシ価格に比べ同1.42元（28円）高く、前月より価格差が

広がっている。

中国国内では、飼料価格の上昇など生産コストが増加する中で、豚肉価格の低迷から養豚生産は赤字とされ、養豚農家の増頭意欲も低下しているとされている。しかし、豚の飼養頭数が当初予測よりも減少していないことから、当面、飼料向けトウモロコシの需要は堅調とみられている。

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

大豆、在庫放出も国産価格は引き続き高水準と予想

春節以降、国産の大豆取引数量はやや増加したが、政府による大豆の継続的な国家備蓄向け購入が下支えとなったことで、価格はわずかに上昇した（図2）。また、短期的な価格動向として、主産地の農家は高値を見越して販売に消極的なことから、国産大豆の供給はひっ迫傾向にある。さらに、大豆国際相場上昇の影響を受けて輸入大豆を利用する搾油向けの供給が不足傾向にあることで、政府系機関による国家備蓄の放出も予定されるなど、大豆需給の緩和に向けた取り組みも行われている。しかし、全体的なひっ迫感が継続

することで、国内の大豆価格は引き続き高水準で推移すると予想している。

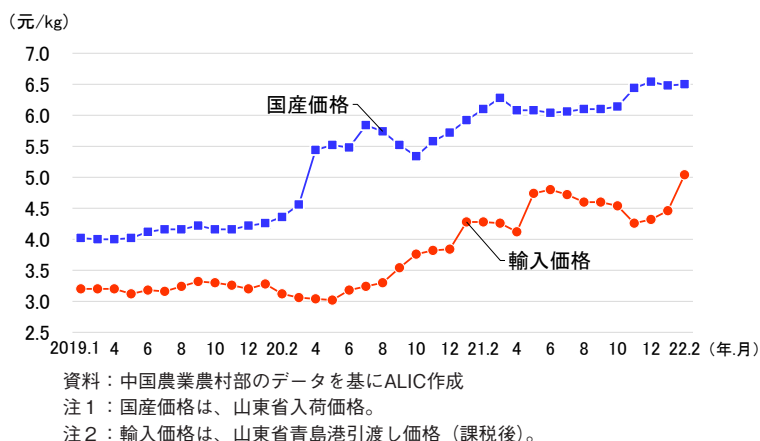
主産地である黒竜江省の搾油用向け国産大豆平均取引価格は、2月が1キログラム当たり4.98元（97円、前年同月比3.2%高）、同じく食用向け同価格は同6.10元（119円、同7.5%高）と前月並みながらも依然として前年に比べ高い水準にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.50元（127円、同6.4%高）と同じく高い水準にある。国産大豆価格と輸入大豆との価格差は、大豆国際相場の上昇などから縮小し、2月が1キログラム当たり1.46元（29円）となった。

このような中で、中国の大豆輸入量は引き

続き増加基調にある。21年（1～12月）は9652万トン（前年比3.8%減）と高い水準の輸入量を記録したが、22年（1～2月）は輸入量が1394万2000トン（前年同期比

4.1%増）、輸入額が83億4800万米ドル（1兆301億円：1米ドル＝123.39円^{（注1）}）と報告されている。

図2 大豆価格の推移



2022年中央1号文書を発表、食料の安全保障を強調

中国共産党中央委員会と中国国務院は2月22日、「2022年中央1号文書」である「2022年の農村振興における重点活動の全面的推進に関する中国共産党中央委員会と国務院の意見書（2022年1月4日）」を発表した。この中央1号文書は、その年の最初に発出される最も重要な政策であり、14年以降、19年連続して「三農（農業、農村、農民）」の問題に対処したものとなる。

今年の中央1号文書では八つの項目が示されているが、注目すべき点として、これまでも筆頭項目として掲げられている「食料の生産と重要農産物の供給確保に全力を挙げる」が特に強調されていることにある。この中では、食料の安全保障に対して党と政府の責任で完全に実施するとされており、穀物在庫の拡充や水資源の的確な管理などによる穀物作

付面積の安定や生産量の維持などが挙げられている。また、90年代以降、輸入により国内需要を満たしていた大豆について、初めて生産能力の強化に向けた取り組みが示されたことが特筆される。

現地専門家によると、食料安全保障は一貫して重要な位置を占めているが、特に今年はCOVID-19が世界的に流行する中で、貿易の混乱や一部の国が食料輸出に制限を設けたことで、食料の国際需給に複雑な変化を生じさせたことが背景にあるとみている。このため、食料の自給率を高め、食料安全保障を確かなものとするのが重要としている。

今回の発表に際し中国国務院は、中国は国際市場の変化やリスクに警戒を怠らないことが重要とし、食料輸入先の多角化を推進しなければならないとしている。さらに、14億人の人口を擁し、食料の需要は今後も増加するとみられることから、その供給をしっかりと保障しなければならないとしている。

大豆の増産に向けた支援を公表

中国農業農村部および中国財務省は3月25日、中央1号文書を受けた2022年の穀物生産の重点課題と支援政策の概要を公表した。これによると、トウモロコシや小麦の生産を維持するとして、新たに大豆の増産に全力を挙げるとしている。具体的には、穀物生産農家に対する補助金の交付や新規耕作地の拡大を進める一方、新たに大豆とトウモロコシの带状複合栽培^(注2)に対する補助などである。農業農村部によると、この栽培方法はすでに技術が確立されたとしており、22

年は国内16省、1500万ムー（100万ヘクタール）以上の農地でこの栽培を推進することで、連作が難しい大豆の増産が図られる。

中国は世界最大の大豆輸入国であり、同国の輸入量の拡大は輸出元である南米の大豆生産を押し上げてきた。中国が大豆の自給に向けて舵を切り替える中で、今後の国際相場への影響が注目される。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年3月末TTS相場。

(注2) 同一の耕作地でトウモロコシを4～6条、大豆も同じ間隔で交互（带状）に作付けし、栽培するもの。

（調査情報部 横田 徹）